

		7. 地域経済活性化事業		8. 他の支援機関との連携を通じたノウハウ等の情報交換に関する事		9. 経営指導員等の資質向上等に関する事	
NO	氏名	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
1	高橋幸司	A	ひな菓子をテーマに地域振興できないものであろうか。鶴岡で頑張っている若者の横連携を行うと共に行政がバックアップする仕組みを作りたい。	A	コメントなし	A	コメントなし
2	小沢 亙	A	良く取り組まれていると思います。	A	良く取り組まれていると思います。	A	良く取り組まれていると思います。
3	本多喜悦	A	計画どおりに実施され、地域資源のされなる有効活用を期待する。	A	これまでのノウハウも生じて良く連携していると評価する。	A	会員の経営支援強化のためにノウハウの共有化等に取り組んだと評価する。
4	渡部 力	B	地域活性化という大きな課題のため各団体と連携して進めていく項目であり、長い目で評価していく必要あり。	A	今後も専門機関と幅広く連携して頂きたい。	A	教育制度の確立等により指導員の資質向上に期待したい。
5	堀 真一	A	それぞれのテーマは、関連する部分があり、目標を絞り込んでも良いのではないかと。	A	コメントなし	A	事業者が求めることは多様化しており、研修等を通じて更にレベルアップを図って頂きたい。
6	斎藤 貴	A	コメントなし	A	コメントなし	A	コメントなし
7	阿部真一	A	コメントなし	A	この分野については、何件情報交換をすればいいのかという数字の積み重ねはあまり関係なく、「随時良質な情報交換を行った」という実績が残ればA評価なのだと考えます。	A	コメントなし
8	齋藤仁志	A	コメントなし	B	コメントなし	B	コメントなし
9	松本壽太	B	地域資源の豊かさを地域住民がより深く理解し再発見できる視点の育成、それを活用するフレキシブルなセンスを磨き続ける努力を。四季の変化や風土、歴史ある景観のなかでの酒であり、食を考えれば庄内に来ていただいて本物を堪能してほしい。	B	地域の機関、団体は同様に地域活性化や発展を望んでいるし競っているとさえ思う。事業者の課題解決には、その専門性のネットワークが必要。連携は良いがベクトルの違いがあり選択が必要かもしれない。	A	スキルアップ努力は当然であり、より多くの会員と接点を持ち、信頼感を醸成し会員満足度を上げ、好感度を高める。現場の強弱は「人間力の差」、環境変化の中でも変わることはない。基本は人づくり。
10	大瀧郁夫	A	活性化のために今後は地域の特性を活かすための具体的施策を検討してゆく。	B	長期的視点を持って各機関との関係を強化していく。	B	より具体的にリーディングカンパニー等派遣し直接に学ぶ事が資質向上するための効果は大きいと思われる。
総合評価		A	A-8名 B-2名	A	A-7名 B-3名	A	A-8名 B-2名